

## 職場の安全・安心チェックシート（動物病院向け）

### 必須項目(店内の環境)

- 発熱や咳などがある場合、院内への立ち入りをお断りする旨を掲示する
- 院内待合での待機は各家庭原則1名でお願いする旨を掲示する
  - ※乳幼児などの子どもがいる場合は例外的に複数名まで良いものとする
- 院内待合での待機は診察が近い順に3名までとし、それまでは車などで待機いただく旨を掲示する  
また待合室では間隔が最低1m以上確保できるように座席を設置する
- 院内ではマスクの着用をお願いする旨を掲示する
- 会計などで対面となる場合はアクリル板などを用いたパーテーションを設ける
- 診察室内にもパーテーションを設置し可能であれば飼い主はパーテーション越しに診察を受けていただく
- 空いた時間に以下の消毒液を用いて環境消毒を行う(空間噴霧でなく拭き取り)
  - 特に診察台、聴診器、診察室のドアなどは診察の度に以下の消毒液を用いて毎回適切に消毒する
  - 60%以上のアルコール
  - 0.05%の次亜塩素酸ナトリウムで消毒後に水拭き
- 手洗い後に使用するためのペーパータオルを設置するなどし、ハンドドライヤーや共用タオルは使用しない
- 気温や天候を考慮したうえで、窓や扉を開けるなど可能な限りの換気を行う
- BGMなどは最小限とし、大声を出さずに会話できる環境を整える(場合によってはお声がけもする)
- 空間除菌は効果がないばかりか、人体やペットに有害な可能性があるため行わない
- このチェックシートを客が見えるところに掲示し、長期的に感染予防を継続する

### 必須項目(管理者/責任者)

- 検温表を準備し、毎日全職員に記載させる
- 体調不良者が申告しやすい環境、雰囲気づくりをする
- 体調不良者がでた場合、軽微な風邪症状であっても出勤させず休養を促す
- 勤務中に体調不良者がでた場合は即座に帰宅させる
- マスク着用、手指衛生、換気の徹底を従業員に指導する
- 以下の「必須項目(従業員)」についても遵守している

### 必須項目(従業員)

- 毎日検温し、37℃以上の微熱や風邪症状があれば絶対に出勤せず責任者に連絡し指示を仰ぐ
- 店内では常にマスクを着用する(鼻と顎がしっかり隠れるマスクを用いる)、  
フェイスシールドでの代用は不可
  - 熱中症のリスクが高く、直接飼い主と接さない環境であれば必要に応じたマスク着用のみで可とする
- ペットに触れる際は手袋も着用し、毎回交換する
- 口腔内の確認時などリスクが高い診察を行う場合は、ゴーグルかフェイスシールドも着用し  
毎回消毒する
- アルコール消毒や石鹸/ハンドソープを用いた手洗いで手指衛生を徹底する。
  - 特に診察後やレジ対応後などは毎回手指衛生をする
  - 手荒れなどで頻回に手指衛生ができない場合、手袋を着用し、毎回手袋の上から手指衛生を行う
- 休憩中など職場で食事する際は1人で食べ、マスクを着用していない状態で会話をしない
- 出勤時間や休憩時間を少しずらすなど、休憩室や更衣室が密にならないようにする

- ユニフォームや衣類はこまめに洗濯し清潔に保つ
- 使用済みのマスクや手袋は蓋つきの密閉されたゴミ箱に捨て、ゴミ袋などで密閉して廃棄する
- 複数人での食事会が最もリスクが高いことを理解し、従業員ならびに同居家族以外との食事は控える
- 勤務時間外に三密空間に行くことを控える
- COCOAを利用し、感染者と接触したと発覚した場合は速やかに責任者に連絡し指示を仰ぐ
- 万が一職場で感染者がでた場合、プライバシーを遵守し職場関係者以外に不要な発言はしない(家族にも)

#### 選択項目(AとBのいずれかを満たす)

- 来院時の手指衛生の徹底、従業員による確認
  - A:60%以上のアルコールを設置する
  - B:石鹸やハンドソープを用いた30秒以上の手洗いを依頼する
- 来院時の体調確認
  - A:入店時に検温し37.5℃以上あれば入店はお断りする
  - B:入店時に風邪症状や発熱がないか口頭か文書で確認し、異常があれば入店はお断りする
- 管理者/責任者が体調不良となった時の対応
  - A:絶対に出勤しない。病院は臨時休業とする
  - B:絶対に出勤しない。この事態を見越し、仕事を任せられるよう教育していた従業員に一時的に運営を任せる
- 会計
  - A:電子マネーなど、接触せずに済む決済を導入する
  - B:現金やクレジットカードは直接手渡しせず、トレイを介して行う。トレイは会計ごとに消毒する

以上、感染症予防対策に取り組んでいます。